

第3回日露隣接地域生態系保全協力ワークショップ

(概要報告)

1 概要

- (1) 開催日：平成27年2月16-17日
- (2) 開催場所：ロシア連邦ハバロフスク市 ハバロフスク科学センター会議室
- (3) 主催：日本国外務省・環境省
- (4) 共催：ロシア科学アカデミー極東支部 水・生態学問題研究所

2 開催根拠

本ワークショップ^{※1}は、2009年5月、日露政府間において署名された、オホーツク海を始めとする日露の隣接地域における生態系の保全及び持続可能な利用のための協力の具体的な方向性を示した協力プログラム^{※2}に基づいて開催された。

※1 日露隣接地域生態系保全協力ワークショップ

2010年4月及び2013年2月、ウラジオストクにおいて開催されたワークショップに続く第3回目のワークショップ。2009年3月及び2011年5月には、札幌においてオホーツク生態系保全・日露協カシンポジウムが開催された。

※2 協力プログラムの正式名称

「日本国及びロシア連邦の隣接地域における生態系の研究、保全並びにその合理的及び持続可能な利用の分野に関する日本国政府とロシア連邦政府との間の協力プログラム」

3 参加者

【日本側】廣幡幸治（外務省）、野木宏祐（環境省）、白岩孝行（北海道大学）、山崎晃司（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）、佐藤喜和（酪農学園大学）、釣賀一二三（北海道立総合研究機構）、小林万里（東京農業大学）、白木彩子（東京農業大学）、児矢野マリ（北海道大学）、（垣内あと、不破理江（通訳））

【ロシア側】Victor V. Bardyuk（ハバロフスク地方政府天然資源省）、Petr Ya. Baklanov・Victor V. Ermoshin・（太平洋地理学研究所, FEBRAS）、Boris A. Voronov・Alexey N. Makhinov・Maria V. Kryukova・Vladimir I. Kim・Tatiana N. Tolkachova・Vladimir V. Pronkevich・Sergey A. Kolchin・Alexey Yu. Oleynikov（水・生態学問題研究所, FEBRAS）、Vyatcheslav V. Rozhnov（A. N. セヴェルツォフ生態学・進化問題研究所, RAS）、Alexey M. Trukhin（太平洋海洋研究所, FEBRAS）、Andrey K. Kotlyar（ウスリー自然保護区, FEBRAS）、Alexey I. Antonov（ヒンガン自然保護区）、Olga P. Valchuk（生物土壌研究所, FEBRAS）、Alexander V. Senchik・Alexey M. Pavlov（極東国立農業大学）、Elena V. Lelyukhina（極東連邦大学）、Yulia G. Rakitskaya（在ハバロフスク露外交代表部）

注：FEBRAS: Far Eastern Branch of Russian Academy of Sciences

4 プログラム（実行後）

【2015年2月16日（月）】

○開会挨拶

- ロシア側 ボリス・ヴォロノフ（水・生態学問題研究所）
- ロシア側 ヴィクトル・バルデュク（ハバロフスク地方政府天然資源省）
- 日本側 廣幡幸治（外務省）
- ロシア側 ピョートル・バクラノフ（太平洋地理学研究所）

○セッション1 オホーツク海の海洋物理化学

議長 白岩孝行

- (1) 白岩孝行（北海道大学低温科学研究所）

「オホーツク海における生物地球化学・物理プロセス及び太平洋とのリンケージ」

- (2) アレクセイ・マヒノフ、ウラジーミル・キム（水・生態学問題研究所）
「2013年のアムール川の大洪水：主な発生要因と影響」

○セッション2 クマ類

議長 山崎晃司

- (1) 山崎晃司（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）
「シホテ・アリン自然保護区におけるツキノワグマとヒグマの種間競争と保護」
- (2) 釣賀一三（北海道立総合研究機構道南地区野生生物室）
「ヒグマとツキノワグマの日露共同研究に関するコメント」
- (3) 佐藤喜和（酪農学園大学）
「大陸と島嶼のヒグマの生態比較の研究計画について」
- (4) アレクセイ・パヴロフ、アレクサンドル・センチュク（極東国立農業大学自然利用学科）
「アムール州のヒグマの自然生息地、生息数及び保護管理」
- (5) セルゲイ・コルチン（水・生態学問題研究所）
「シホテ・アリンにおけるツキノワグマの研究」

○セッション3 鱗脚類

議長 アレクセイ・トゥルヒン

- (1) 小林万里（東京農業大学／北の海の動物センター）
「ゼニガタアザラシの個体群の遺伝的特徴と系統分布」
- (2) アレクセイ・トゥルヒン（太平洋海洋研究所）
「ピョートル大帝湾におけるゴマフアザラシの研究」
- (3) ヴャチェスラフ・ロジュノフ（A.N.セヴェルツォフ生態学・進化問題研究所）
「アムールトラ、ユキヒョウ、シロイルカ等のロシアのレッドリスト掲載種プロジェクトについて」
- (4) アレクセイ・オレイニコフ（水・生態学問題研究所）
「水辺生息地における陸生哺乳類の外来種の生態学的役割について」

○総合討論

野木宏祐（環境省自然環境局）、ロジュノフ、バクラノフからコメント

【懇親会】

在ハバロフスク日本国総領事公邸

野口秀明総領事、バルデューク次官より挨拶

【2015年2月17日（火）】

○セッション4 オジロワシ、その他鳥類

- (1) 白木彩子（東京農業大学）
「生息数の構造と変動の解明に向けた極東におけるオジロワシの総合分析」
- (2) ボリス・ヴォロノフ、ウラジーミル・プロンケヴィッチ（水・生態学問題研究所）
「アムール川流域とオホーツク海南西部におけるオジロワシとオオワシの個体数と分布」
- (3) アレクセイ・アントノフ（ヒンガン国立自然保護区／アムール州）
「アムール州ヒンガン国立自然保護区を基盤とする長期的な鳥類生息数の研究とその保全上の示唆」
- (4) オリガ・ヴァルチュク（生物土壌学研究所）
「日露の渡り鳥バンディング・プロジェクトの協力の成果と沿海地方及び富山県の科学者及び鳥類愛好家の協力継続の展望」

○総合討論

議長 白岩孝行／ボリス・ヴォロノフ

両議長から2日間の議論を踏まえた総括的なコメントが行われたほか、オブザーバー参加した児矢野マリ（北海道大学）から、越境環境協力を研究する国際法学者の立場から見た今後のプログラムのあり方についてのコメントがあった。

○閉会挨拶

ボリス・ヴォロノフ

5 各セッションの概要

○海洋物理化学

- ・日本側から、日露共同研究により明らかになった、北太平洋からベーリング海を経てオホーツク海に至る低塩海水の実態とアムール川からオホーツク海、親潮域へのFe²⁺輸送の定量的把握という二つの学術的成果のほか、アムール・オホーツクコンソーシアムの近年の活動について報告。
- ・ロシア側から、2013年の観測史上最大のアムール川大洪水のメカニズム(気候、地形、人為的要因等)について報告。

○クマ類

- ・日本側研究者から、大陸等のヒグマ・ツキノワグマ種間関係に関する調査計画、Hair-Trap法により採取したクマ類の体毛のDNA分析による生息数の分析手法、大陸、北海道、北方四島のヒグマの食性の比較等について報告。
- ・ロシア側研究者から、ヒグマとツキノワグマ(さらにはトラ)が共存する、シホテ・アリン国立自然保護区等におけるクマ類の生息状況とその生態について報告。

○鰭脚類等

- ・日本側から、ゼニガタアザラシのミトコンドリアDNAの分析による北太平洋におけるハプロタイプの分布とその進化経路について報告。
- ・ロシア側から、ピョートル大帝湾におけるゴマファアザラシの生息状況、生態、危機要因等について報告。
- ・ロシア側から、アムールトラ、ユキヒョウ、シロイルカ等ロシアのレッドリスト掲載種の特別プロジェクトの進行状況について報告。

○鳥類

- ・日露双方から、オオワシ及びオジロワシの生態及び渡りのルート等に関する研究の現状について報告があり、ロシア側から個体数の共同調査の希望が表明された。
- ・ロシア側から、その他の鳥類の保護についての日本側との知見の共有への期待及び沿海地方と富山県の間で実施されてきているバンディング調査の継続の必要性について指摘があった。

6 成果

- ・越境的な自然環境の解明、環境問題の解決及び環境保全については、共同研究や研究協力が不可欠であり、その意味においても日露プログラムの有用性が確認され、日露の参加者間で共通認識が形成されたこと。
- ・日露隣接地域の自然環境研究に関わる日露の研究者の研究成果の共有や意見交換の場が維持されると共に研究者間の新たな出会いの場ともなったこと。
- ・日本側研究者からロシア側研究者に対し、許認可等の諸手続きが、共同研究の障害となっていることについて伝え、問題の共有が図られたこと。
- ・ロシア側から、ロシア天然資源・環境省及び外務省に対し、今次会合の成果を報告するとともに、プログラム事業への更なる関与を要請する書簡を送ることとしたいとの発言があったこと。